開発教育ニュースレター　No.27　1990.11
発行：東京都新宿区西早稲田2-3-18-61
開発教育協議会事務局　Tel 03-207-8085

来年の全国研究集会は東京で

八月の第８回全国研究集会を評価した開発教育協議会理事会は，研究集会のテーマを明確にすること，各地の研究集会開催を可能にすることという二つの条件のもとに，協議会設立十周年を記念する来年の全国研究集会を，八月に東京で開催することにした．具体案は運営会議で策定し，理事会にはかったうえ，年内にもその準備に取り掛かるようにしたいとしている。

NGOとODAに関する提言

NGO活動推進センターと関西国際協力協議会が昨年に発足させたNGOとODAに関するNGO・学識経験者合同委員会は，昨年度から始まった外務省のNGO事業補助制度について関係のNGOにアンケート調査していたが，このほどその結果を，NGO事業補助金制度を中心としたNGOとODAに関する提言という形でまとめて発表した．

提言はまず現行のNGO事業補助金制度の運用について，NGO事業のニーズ把握，公募と申請手続き，補助対象事業，補助金交付，決算と完了実績報告の五点にわたって改善を申し入れている．さらに今後のNGOとODAの望ましい関係について，次のように提言している．すなわち

①NGO事業補助金制度については，現行のメニュー方式ではなく，補助対象事業分野を指定するだけの方式にかえること，団体補助金の枠を拡大すること，事業補助金制度のモニター・評価・提言のために政府と民間による合同のNGO開発協力委員会のようなものを設置すること

②小規模無償資金協力については，これが人道的な立場から草の根の人々の自助活動に配分するものであるという理念を明らかにすること，在外公館における実施体制を充実させること，現地NGOや現地における日本，欧米のNGOとの協力をえて実施すること

③DAC資料によると日本の外務省は年間百億円前後の補助金をODAからNGOに支出しているとなっているが，国内で明らかにされているのは数億円程度なので，政府によるNGO支援策の情報公開と第三者によるその評価を行うこと

の三点である．

世界の金持ちと貧乏人

世界には157人の十億ﾄﾞﾙ長者が，二百万人の百万ﾄﾞﾙ長者がいるが，一方には家のない生活を余儀なくされている一億人の人間がいる．また食べ過ぎている人たちは五億人を数え，ほぼ同じ数の人たちが生きていくためのかつかつの量しか食べていない．［ﾜｰﾙﾄﾞ　ｳｵｯﾁ］から．

途上国における象保護の教訓

象牙の密輸がしばらく前にマスコミをにぎわせていたが，これは別の視点からの動物保護の話．国際野生生物に掲載されたザンビアの野生生物資源管理官のデイル

ルイスの「マンゴの木の下での学習」という一文を，ﾜｰﾙﾄﾞ ﾃﾞｳﾞｪﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ ﾌｫｰﾗﾑが紹介している．

ザンビアのある村の村民集会に呼び出されたルイスは，「ルイスさん，あなたはよその家に入る時にノックしますか」とマラマ族長に尋ねられた．「はい」と応えるルイスにマラマ族長は「ではなぜ私の土地に私の許しも得ずに国立公園をつくったのですか．なぜ我々のところの象を調べるのですか．人間と野生動物とどちらが大事なのですか」

マラマ族長は続ける．村に住んでいない人たちは，村人が野生動物をどうみているのかを知らない．動物はこの地域の生活向上にあまり役立っていない．外国の金持ちのサファリ・ハンターだけが狩猟を許されている．そして村人は肉に飢えているのに，ハンターは生肉を狩猟の餌として使っている．我々は正直者だ．密猟はしたくない．それに我々は長い間ここで動物を扱ってきている．私が診療所を建ててくれとか村の道路を格上げしてくれと頼んでも，政府はいつもだめだとしかいわない．そのくせ政府も外国の人たちも我々の野生動物から利益を引き出しているのだ．我々は無視されている．どうすれば我々で野生動物を管理できるようになるのか，教えてほしい．
我々は我々でこの土地の動物を保護し育てるようにしたい．

このマラマ発言をきっかけにザンビアの野生動物保護政策が変わった，とルイスは書く．保護管理官が保護しようと探している象は狩猟公園の外の，マラマ族長の土地にある食料によって生きていることがわかった．とにかく村人の協力がなければなにもできない．

大騒ぎをして，それでも40人以上の関係者をこの村に集めた．マラマ族長が話し，専門家は耳を傾け，新しい野生動物保護の時代が始まった．
大きな収穫と変化があった．マラマ族長の支配下にある近隣の村から若者が監視員や保護官として雇用されるようになった．三年もたたないうちに、この辺りの象とサイの密猟が九割も減った．カバ，カモシカ，野牛を再生可能な量だけ狩猟するようにしていくことによって，その皮，肉，歯の販売代金から村の31人が現金収入をえるようになった．大量の肉が住民に供されるようになった．その純益は預金され，必要に応じて地域開発資金にまわされた．サファリ猟は地域の大切な収入源となった．その40％は地域の開発事業にまわされ，60％は野生生物管理経費にあてられた．サファリ猟のための職員には土地の人たちが採用されるようになった．

象を監視するためには伐採が必要だと考えられていた地域の森は，そのままで保存されることになった．密猟がほとんどなくなったので，猟銃による事故がずっと少なくなった．象が戻ってきた．この土地の管理方式は他の狩猟公園にも適用されるようになった．

ここで成果をあげたのは，科学的な仮説や調査報告にもとづいた保護管理策ではない．マンゴの木の下の村民集会から学んだことは，アフリカで自然保護にあたる人々は，地域の人々の生活に敏感でなければならないということである，とルイスは記している．

日本ユニセフ協会から二つのお知らせ

日本ユニセフ協会では「識字 ― 生きるための文字」という表題の展示用の写真パネルなど，70点を用意して貸し出すことにした．各地のグループや団体がこれを利用して展示会を開き，これからの十年にお

ける識字と教育が21世紀の世界をどう左右するかを，一人でも多くの人たちに知らせるようにしてほしいと呼びかけている．この展示用パネルの貸し出しは来年末までで，一会場の展示期間は原則として十日間以内，最低50㎡のスペースは必要だそうだ．

貸し出しは無料，パネルの送料は協会負担，また地元の開催経費のねん出についても相談にのるそうなので，関心があるかたは東京都港区麻布台3-1-2　日本ユニセフ協会協力事業部まで問い合わせること．
電話は03-583-4407．

また，ニューヨークのユニセフ本部が発行した「世界の子どもの権利」と題する開発教育キットをユニセフ協会で日本語に翻訳発行した．この子どもの権利条約学習用ハンドブックは全体で八章構成になっていて，各章ごとに関連する子ども権利条約の条項がいくつかずつ示され，その学習のためのゲーム，討論，読物資料などが，教師向けの解説といっしょにまとめられている．対象とする学習者については，読物資料についている説明によると，十歳以下，十ないし十五歳，十五歳以上という三グループを想定しているようだ．問い合わせは同じく日本ユニセフ協会あてに．

曹洞宗ボランテイア会から お願いとお知らせ

今年もカンボジア・ラオス難民カレンダー募金を始めている．ボランテイア会がタイの難民キャンプで実施してきた印刷技術教育活動の成果として，キャンプでの受講者が製作した1991年用カレンダーを，活動資金募金を意図して頒布するもの．カオイダン難民キャンプで製作されたカンボジア難民カレンダーは，このキャンプ閉鎖が決っているので，今年が最後のカレンダーになるかもしれないそうである．ラオス難民カレンダーはバンビナイ難民キャンプで製作されたもの．　いずれも送料別で一部1,500円．問い合わせあるいは申し込みは，東京都豊島区巣鴨1-28-5ヒカリビル
曹洞宗ボランテイア会カレンダー係あてに．
電話は03-945-0981．

ボランテイア会では二回めの翻訳出版に手をつけた．タイの1970年代の民主化への動きとその反動時代を描いた小説の翻訳出版であり，そのことによって，タイの現代社会の理解を促し，同時にその売上を活動資金にあてようとしている．トヨタ財団の助成をうけたものだが，原作はアムナートジェンサバーイさんの「寒い夜空ータイ民主化に賭けた青春群像」で八月に刊行した．発売は勁草書房からで，定価は1,845円．

第三世界ショップで開発教育研究所

プレス・オールターナテイブ10月号によると，第三世界ショップ経堂店で開発教育研究所の会合が開かれだしている．この開発教育研究所の発起人である山田満さんによると，若い世代の人たちに第三世界諸国とのかかわりを積極的にもってもらい，感性を磨いてもらいたいという思いを現実化し実践化するための研究所ということである．参加希望者を歓迎しているから研究所といっても施設ではなく，人々の集まりを想定しているようだ．問い合わせは第三世界ショップの西村さんまで．
電話は03-791-2147．

学習集会の案内です 開催時期の早い順です

国際理解講座

アジアの開発と私たち　ー　ゴミから見えるアジア

東京YMCAでは第15期の国際理解講座を，「ゴミから見えるアジア」を主題に，11月の9,17,22,30日と12月7日の５回にわたって，高田馬場の東京山手YMCAを会場に開催することにした．いずれも午後７時からの夜間開講．各回とも課題を変えて講師を招き，講師の発題に応えて討議をし理解を深めていこうとしている．受講料は各回800円，全回通すと3,500円．参加希望者は03-202-0321の東京山手YMCAまで電話で申し込むこと．

婦人学級　内なる国際化への課題

大宮市の国際ボランテイアの会は大宮市教育委員会の委託をうけて，婦人学級を開催中だが，11月17日にタイの人々の暮しと日本人という主題で講演会を開く．また12月8日はタイの映画「田舎の教師」でフィルムフォーラムの予定．いずれも土曜日の午後で，市外からの参加も歓迎している．会場は大宮情報文化センターで，会費は資料代として各回とも700円．問い合わせは048-642-6 957の柳沢久子さんまで．

協議会事務局から

★第46回理事会

9月13日に開かれ，全国研究集会の評価と来年の方針について検討し（別項参照），また財政対策として財務小委員会の報告をうけ，開発教育情報センター後援会を発足させることとした．後援会の具体案は次回の理事会で検討する．

★第32回運営会議

9月20日の夜に開かれ，各担当から情報センター，機関誌などについての報告を聞いたあと，主として全国研究集会の評価と来年の集会のありかたについて検討した．そして来年の全国研究集会のあり方を提案する委員会を構成した．

［新入・継続会員］（敬称略，1990年8月21日～10月25日）

〈新入会員〉

高橋　健（愛知）　本橋淑美（東京）　阿見拓男（栃木）　角海久美（栃木）　沖　進（東京）　林川玉輝（神奈川）　堀部ゆり子（埼玉）　小堀俊夫（埼玉）　松本　悟（北海道）　西田裕美（大阪）　とちぎYMCA（栃木）　石井直子（和歌山）　風巻　浩（神奈川）土井二郎（東京）　小泉雅弘（北海道）　前川　実（大阪）　馬場　清（東京）　三島知斗世（愛知）　寺西和子（愛知）　小野静男（福岡）　国生美南子（千葉）　ケアジャパン（東京）　武富安子（滋賀）　豊田三佳（東京）　脇坂聖也（東京）　江沢信一（埼玉）　金尾有理子（神奈川）　荒武和枝（埼玉）　石上康彦（静岡）　藤村泰夫（山口）

〈継続会員〉

岡田純爾（岡山）　小貫　仁（埼玉）　阿部義之（京都）　上原美奈子（神奈川）　森山泰準（神奈川）　守田健雄（石川）　本橋　栄（東京）　桂　暎雄（京都）　竹内裕一（千葉）　水野直美（東京）　猪股雄輝（神奈川）　平田洋一（広島）　小野豪大（神奈川）ロニー　アレキサンダー（兵庫）　旦　節子（東京）　森本栄二（愛媛）　北　俊夫（東京）　富里るみ子（沖縄）　若松悠紀子（東京）　茂呂雅之（東京）　稲垣有一（大阪）河本すみれ（岡山）　大津和子（兵庫）　豊田市国際交流協会（愛知）　荒井良夫（東京）吉村慶一（神奈川）　岡　憲司（大阪）　友延栄一（岡山）　古賀武夫（佐賀）　酒井励子（神奈川）　加藤敦史（埼玉）　寿　茂（大阪）　野元弘幸（ブラジル）　山本鐘生（岡山）　国保　茂（京都）　深津高子（東京）　阪崎健二郎（北海道）　森田　茂（埼玉）青木朋子（大阪）　古賀純子（熊本）　阿部久美子（宮城）　田中義信（大阪）